

4-1

北欧研修報告

フィンランドの人々との関わりから心の温かさを学ぶ

フィンランド

ホスピタリティ

特別養護老人ホーム 至誠キートスホーム

ケアワーカー 主任 山川 薫

ケアワーカー 副主任 林 美保

東京都立川市幸町4-14-1

TEL 042(538)2323

E-mail shisei-kitos@shisei.or.jp

FAX 042(538)2324

URL <http://www.shisei.or.jp>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

至誠キートスホームは平成12年4月に開設。入居70床、ショートステイ20床、
デイサービス、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、ホームヘルプ等をも
つ高齢者総合福祉施設。キートスとはフィンランド語の「ありがとう」の意味です。

〈取り組んだ課題〉

我が施設には、北欧研修派遣制度がある。北欧フィン
ランドのヘルシンキ市に姉妹提携している施設（パキラ
ホーム）において、生の現場研修が体験できる。

- ・ 勤続2年以上の職員より一般公募
- ・ 4週間の長期研修
- ・ 至誠ホーム人材育成橋本基金

〈具体的な取り組み〉

- ・ 毎年、2～3名の職員を派遣。
- ・ ヘルシンキ市パキラホームにて現場研修。
介護技術、連携体制、情報管理、介護機器の活用
利用者の生活、アメニティなどを学ぶ。
- ・ 帰国後、研修報告会、報告書の作成
- ・ パキラホームからの交換研修生受入れ

〈活動の成果と評価〉

1. 研修の学びを具現化（以前の研修を含む）

- ① グループホームを開始
→平成7年 グループホームしせい
- ② ユニットケアの実現
→平成12年 至誠キートスホームの開設
- ③ 高齢期の「住み替え」の発想
→平成15年 至誠ホームスオミ（ケアハウス）
の開設
- ④ 従来型特養へのグループリビングケアのフィー
ドバック
→平成18年 至誠ホームにて

2. フィンランドに学ぶべきこと

- ① アメニティの充実
- ② 歩くことの意識の高さ
- ③ フットケア
- ④ ターミナルケア

3. 日本のケアの気付き

- ① 日本人の決め細やかなケア
- ② ボランティア活動の充実

まとめ

- *日本のケアの良さを確認し、自分たちのケアに自信。
- *異なる生活文化に触れることで、日本の生活文化を
意識。多様な生活の豊かさを実感。
- *専門知識や技術だけでなく、フィンランドの人々との
触れ合いから、心の学び。
- *自分たちの生活（時間）を楽しむ。

〈今後の課題〉

- ・ 誰でも行けるチャンスがある。職員の向上心に。
- ・ 自分たちのケアを客観的にみる機会に。
- ・ 研修生を通して、メールやFAXなど他の手段も活
用し姉妹施設と情報交換。
- ・ 業務にとらわれず、生活上の楽しみのひとつとして
フィンランド文化に触れる場に。